

令和3年度事業実績報告書・令和4年度事業計画書 1  
中部地域包括支援センター

1 基本情報

(1) 事業所情報 (令和4年4月1日時点)

名称	中部・高齢者なんでも相談室	
所在地	流山市下花輪409-6	
法人名	東京勤労者医療会	
センター長	土谷 しのぶ	
職員体制	保健師その他これに準ずる者	2名
	社会福祉士その他これに準ずる者	2名
	主任介護支援専門員その他これに準ずる者	1名
	(事務員)	1名

(2) 担当地域情報 (令和4年4月1日時点)

担当地域	東初石1～4丁目/青田/駒木/駒木台/美田/若葉台/桐ヶ谷/谷/下花輪/上貝塚/大畔/上新宿/上新宿新田27～34番地/西初石1丁目73番地/西初石2～5丁目/おおたかの森北一～三丁目/おおたかの森南一～三丁目/おおたかの森東一～四丁目/おおたかの森西一～四丁目	
人口	65902人	
65歳以上人口	11435人 (高齢化率)	17.4%
75歳以上人口	6084人	
要介護者数・要支援者数	2059人 (対65歳以上人口)	18.0%
居宅介護支援事業所	12か所	
介護保険事業所等	訪問介護事業所	10カ所
	訪問看護事業所	9か所
	通所介護事業所 (地域密着型含む)	16か所
	通所リハビリテーション事業所	3か所
	訪問リハビリテーション事業所	1ヶ所
	短期入所生活介護事業所	5ヶ所
	短期入所療養介護事業所	0か所
	特定施設入居者生活介護事業所	2か所
	介護老人福祉施設(地域密着型含む)	3ヶ所
	介護老人保健施設	0か所
	認知症対応型共同生活介護事業所	3か所
	認知症対応型通所介護事業所	1ヶ所
	小規模多機能型居宅介護事業所	1ヶ所
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	1ヶ所
	定期巡回・随時訪問型訪問介護看護事業所	1ヶ所
	ケアハウス	0か所
地域包括支援センターの運営方針	・「元気で 生き生き 安心 流山」を目指し、地域特性や実情を踏まえて、身体的、精神的、社会的にも安心して住み続けられるよう住民の方と共に考えます。 ・地域から「身近な相談窓口」として信頼されるように、公正中立かつ丁寧な対応を目指します。専門性、総合性を併せ持った支援を目指します。 ・地域の方々と様々な社会資源の有機的な関係を活かし、行政機関や各専門機関と協働して「地域ぐるみの支え合いによるまちづくり」を目指した活動をします。	
地域特性と課題	人口増加が顕著な地域です。おおたかの森駅周辺マンション群への転入者増加により、令和4年度は新たにおおぐろの森中学校が開設しました。半年間で人口約1500人増加。後期高齢者数増加に伴い、認知症の周辺症状・生活が成り立たなくなっている相談が増えています。高齢者が地域で活躍できる場づくりが介護予防に繋がる事を啓発し、地域内の繋がりを再構築していく事が課題となります。引き続き、民生委員・自治会・サロン活動・老人会・NPO法人など高齢者支援団体と活動を速やかに相談援助できる関係を維持することが必要です。	

令和3年度事業実績報告書・令和4年度事業計画書 2  
中部地域包括支援センター

2 概要(重点目標)

(1) 令和3年度事業報告(重点目標)

重点目標 1	高齢者ひとりひとりが身体的、精神的、社会的にも安心して住み続けられるよう、早期に相談に繋がれるように、包括の周知を市民に図る。地域包括ケアシステムの構築に向け、関連機関の具体的連携活動に繋がるように、地域ケア会議の内容・開催を工夫していく。	
	(具体的対策)	・地域訪問活動や「気になるケース」の巡回訪問、民生委員との情報交換会は継続し、支援の遅れを防ぎ、尊厳を守る。 ・介護予防教室開催、NPO法人など市民団体との協同企画参加、開催、広報誌発行、ホームページ更新を行う。 ・地域ケア会議開催・ケアマネ交流会開催・関連機関との事例検討会開催・地域内関係機関へのチラシ配布を行う。 ・ながいき100歳体操サークル、高齢者ふれあいの家、老人会などにチラシの配布、包括周知活動を継続する。
	(実績)	・民生委員との情報交換会8回開催。『気になるケース』訪問を継続、情報交換会ででたケースも追加で訪問計画8件実施。 ・介護予防教室、ながいき100歳体操グループ2か所、県営住宅で開催。広報クローバー2回発行。元気シニア高齢者支援団体と講演会・パネルディスカッションを企画・運営協力実施。ホームページ更新実施。 ・地域ケア会議、推進型2回・自立支援型2事例・個別型2回開催。ケアマネ相談、困難事例検討会開催。 ・チラシでの周知継続。
	(評価)	・民生委員と情報交換を開催することにより、高齢者と障害の世帯・孤立世帯・認知症の方の発掘・支援に繋がれたケースが増えた。また支援には繋がらないが、長期間をかけて伴走支援が必要な事例も増加している。また、気になる親子が住む、県営住宅で介護予防教室を実施し、通える場づくりを模索した。地域ケア会議では『新生活下での地域活動を考える』をテーマに2地区で開催、広報で通い活動の取り組みを掲載し、周知に活かした。支援団体とのコラボ企画で包括の周知を図った。
重点目標 2	高齢者の権利擁護について住民と考える機会を重ね、「安心できる生活設計」「認知症になっても安心して住み続けられる」を支援する。	
	(具体的対策)	・高齢者安心講座の開催、『虐待対応』をテーマに関連機関との事例検討会を開催、専門職の意識向上、協力関係構築。 ・認知症サポーター養成講座開催、えがおの談話室開催、認知症家族の会開催、認知症地域支援推進委員活動参加協力。
	(実績)	・個別ケース対応を通して関係機関に『虐待対応』の周知・意識向上支援を行った。虐待ケースが増加し、困難ケースの検討に行政と協力し、県の虐待支援チームとの検討の機会、弁護士のアドバイザリー契約を活用して、対応の検討を繰り返しているが、なかなか終結を迎えらず、伴走しているケースが増えている。また、流山市カナミック上で関係機関の情報共有を図る取り組みを2件開始した。迅速な対応に繋がっている。 ・認知症サポーター養成講座3回えがおの談話室7回・認知症家族会5回開催。認知症地域支援推進委員会に積極的に参加・意見を伝えた。
	(評価)	・高齢者権利擁護について、虐待ケース対応を通して各関連機関との情報共有や対応を通してスキルアップを目指してきた。背景に経済力・介護力・家族関係・様々な問題が複雑に絡み合っており、県の虐待チームとの検討会や弁護士のアドバイスが受けられたことで、展開が開ける体験をすることができた。カナミックの活用など、人員が限られている中でどう情報共有を速やかに行い、安全を守る対応を遵守していきたい。 ・認知症サポーター養成講座・介護予防教室の開催回数が限られており、来年度はZOOMでの開催なども模索していきたいと考えている。

(2) 令和4年度事業計画(重点目標)

重点目標 1

高齢者一人ひとりが身体的、精神的、社会的にも安心して住み続けられるよう、早期に相談に繋がれるように、包括の周知を市民に図る。地域包括ケアシステムの構築に向け、関連機関の具体的連携活動に繋がるように、地域ケア会議の内容・開催を工夫していく。	
(具体的対策)	・地域訪問活動や「気になるケース」の訪問10回、民生委員との情報交換会は6回開催。支援の遅れを防ぎ、尊厳を守る。 ・介護予防教室開催、NPO法人など市民団体との協同企画参加、開催、広報誌発行、ホームページ更新を行う。 ・地域ケア会議開催、ケアマネ交流会開催、関連機関との事例検討会開催、地域内関係機関へのチラシ配布を行う。 ・ながいき100歳体操サークル、高齢者ふれあいの家、老人会などにチラシの配布、包括周知活動を継続する。

重点目標 2

高齢者の権利擁護について住民と考える機会を重ね、「安心できる生活設計」「認知症になっても安心して住み続けられる」を支援する。	
(具体的対策)	・高齢者安心講座『成年後見制度・消費者被害』をテーマに開催計画。関連機関との事例検討会を開催し、専門職・支援者の権利擁護意識の向上、協力関係構築を図る。 ・認知症サポーター養成講座開催、えがおの談話室開催、認知症家族の会開催、認知症地域支援推進委員活動参加協力。

令和3年度事業実績報告書・令和4年度事業計画書 3  
中部地域包括支援センター

3 各業務

	令和3年度事業報告					令和4年度事業計画				
	計画	実施			評価	目標	計画			
総合相談支援業務	1.相談業務について ①地域ネットワーク構築への取り組み。 ・地区診断を継続 ・各専門職との連携やフォロー体制の強化 ・地域訪問活動、「気になるケース」巡回訪問は月1回実施を目指す。 ・民生委員との情報交換会の開催継続 ②地域包括支援センターの機能、役割の周知を図る。 ・広報クローバーを年3回発行する。	総合相談	電話	(延)	3,150件	1.相談業務について ①地区診断で把握した内容を介護予防教室、民生委員との情報交換会、高齢者支援団体合同講演会でポスターセッションを行い状況共有、フォロー体制強化を図った。 ・民生委員との情報交換や地域からの情報を元に、巡回訪問を実施。定期的な巡回も10回開催し、把握に努め、必要な支援に繋ぐ活動を継続した。 ②ながいき100歳体操サークルや介護予防教室時に広報クローバー・チラシ配布を行い、啓発に努めた。その内容から相談に繋がるケースも見られている。	1. 関連各機関や地域団体との連携を強化する。 2. センターの相談機能の向上を図る。	1. 関連各機関や地域団体との連携を強化する ①地域ネットワークの取り組み ・地区診断を継続 ②「気になるケース」巡回訪問は年10回実施 ③民生委員との情報交換会の年6回開催継続 ④地域包括支援センターの機能、役割の周知を図る。 ・広報クローバーを年3回発行 2. センターの相談機能の向上を図る ①障害・ダブルケア等、多機関と連携強化に務める。 ②3職種で検討を重ね、互いに協力して対応する。  ＊緊急事態宣言下は計画を見直す。		
			来所	(延)	250件					
			訪問	(延)	950件					
			その他	(延)	43件					
		計	(延)	4,393件						
地域包括支援ネットワーク構築	・民生委員との情報交換会8回開催 ・活動状況での困りごとを共有 ・すみれ・ユーマネット等と事例で連携対応 ・NPO法人などと地域活動状況の情報共有。講演会とパネルディスカッション企画協力し、元氣シニアの活動を周知啓発									
実態把握	・『気になるケース』を、民生委員と共に訪問8件。住民・民生委員からの相談で消費者被害最小限にしたケース1件。認知症・(独居含む)徘徊・金銭管理ができていないケース等、支援介入開始ケース12件。年単位で伴走支援しているケースの増加。									
その他	・広報誌クローバー2回発行 ・介護予防教室、公民館などチラシ配布									
権利擁護業務	1.高齢者虐待対応 ①ケアマネ・関係機関・住民に啓発活動を行う。 ②虐待対応を市や関係機関と連携し迅速に対応する。 ③虐待ネットワークへの協力協同 ④虐待研修に積極的に参加、スキルアップに努める。 ⑤虐待ケースの振りかえり研修を開催し、虐待防止に努める。  2. 成年後見制度 ①活用支援 ②市民向け啓発活動 ③流山市成年後見推進センターとの連携  3. 消費者被害の防止・対応 ①消費生活センター・警察との連携 ②被害防止に向けた情報発信を行う。	虐待の防止・対応	通報受理件数	(実)	30件	1.高齢者虐待対応 ①③ケアマネや関係機関に向け虐待研修を実施した。虐待ネットワークに協力した。 ②県の虐待対応支援チームや弁護士のアドバイザリー契約を活用し支援に生かした。 ④虐待現任者研修を受講した。 ⑤関係機関及び行政と共同で事例の振り返りを実施した。 2. 成年後見制度 ①生活困難な方に対し、制度活用支援のみならずライブライン維持等の生活に必要な支援を実施した。 ②専門職に向けオンラインで実施した。 ③中核機関と連携し、合同でカンファレンスを行う等に対応した。ネットワークにも協力した。 3. 消費者被害の防止・対応 ①消費生活センターと連携し詐欺被害の防止に努めた。 ②民生委員へ向け情報発信した。	1.関係機関や行政、住民と共同し、高齢者の権利が守られる体制を構築していく。	1.高齢者虐待対応 ①ケアマネ・関係機関・住民に啓発活動を行う。年1回、民児協で啓発を行う。 ②虐待対応を市や関係機関と連携し迅速に対応する。 ③虐待ネットワークへの協力協同 ④虐待研修に積極的に参加、スキルアップに努める。 ⑤関係機関や行政と虐待ケースの振り返りを行い、虐待防止に努める。  2. 成年後見制度 ①活用支援 ②啓発活動を年1回実施 ③成年後見促進センターと連携  3. 消費者被害の防止・対応 ①消費生活センター・警察との連携 ②被害防止に向けた情報発信を行う。		
			(うち虐待ありと判断)	(実)	9件					
		消費者被害の防止・対応	訪問先で地域住民に注意喚起を行った。消費者被害情報を流山市消費生活センター、警察と共有実施。ケアマネ・民生委員への情報発信を行った。							
			成年後見制度等の普及啓発	個別ケースの対応を通じ、関係機関への啓発活動を行った。ケアマネ交流会で流山市中核機関と連携し制度の普及啓発に努めた。						
		判断能力を欠く状況にある人への支援	成年後見制度	(実)	11件				③中核機関と連携し、合同でカンファレンスを行う等に対応した。ネットワークにも協力した。 3. 消費者被害の防止・対応 ①消費生活センターと連携し詐欺被害の防止に努めた。 ②民生委員へ向け情報発信した。	
	(うち申立て支援)		(実)	8件						
	(うち市長申立て)		(実)	3件						
	日常生活自立支援事業	(実)	1件							
	成年後見制度支援ケースは倍増している。親族不在や生活困窮ケースが目立つ。									
	その他	虐待研修(現任)受講								
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	1.体制構築 ①ケアマネ交流会ZOOMで3回・集合型で3回開催企画 ②ケアマネの意見を入れた計画作成 ③民生委員とケアマネの事例検討会 ④ケアマネが相談しやすい関係づくりに努める。 ⑤地区データ、地域分析を行い、地域活動に活かす。 2. 地域ケア会議 ①『新生活環境下での見守りの工夫』をテーマに企画、各地域1回開催予定。ただしコロナウイルス感染の状況によっては開催方法を変更することとする。	体制構築	ケアマネ交流会	(回)	6回	1. 体制構築 ①②ケアマネにアンケート調査を実施し、開催内容を決定。今年度初、主任ケアマネ更新条件を意識して、3時間研修修了書発行などを行った。内容についてもフレイル予防の視点で、介護予防プランに活かせるスキルアップを目指した企画とした。 ③集合ではなく個別ケースで民生委員と連携を図った。 ④昨年比1.42%相談が増えている。引き続き相談しやすい関係構築、信頼維持に努めていく。 ⑤高齢者支援団体のポスターセッションに参加。分析結果を周知、啓発した。 2. 地域ケア会議 ①2回開催、広報で周知した。	1. 介護支援専門員への適切なサポート機能を強化する。 2. 体制構築に向けて、包括的・継続的ケアマネジメントが可能な環境整備を目指す。	1.介護支援専門員支援 ①ケアマネ交流会年5回開催企画、開催。 ②ケアマネの意見を入れた計画作成 ③民生委員とケアマネの事例検討会開催 ④ケアマネが相談しやすい関係づくりに努める。 2. 地域ケア会議開催 ①推進型地域ケア会議2回開催 ②自立支援型地域ケア会議開催 ③地区データ、地域分析を行い、地域活動に活かす。 ④対応困難ケースについて地域ケア会議を活用して連携を図る。  ＊緊急事態宣言下は計画を見直す。		
			(延)	91人						
		介護支援専門員への個別支援	集合型・ZOOM計6回実施。地域ケア会議検討内容を『中部だより』作成し配布。主任ケアマネ更新を考慮し、3時間研修開催。							
			相談件数	(延)	241件					
		地域ケア会議	・困難ケースの相談や同行訪問、障害家族の支援援助、連携 ・虐待疑いケースのカナミック活用実施							
			推進		2件					
			個別		3件					
自立支援型		2件								
その他	推進：八木北・西初石地区『新生活下での地域活動を考える』の結果から、おおたかの森地区は聞き取りと取材活動。通信作成で啓発。認知症など対応困難な事例で個別地域ケア会議を開催した。									
第一号介護予防支援事業(介護予防ケアマネジメント)	1. 介護予防ケアマネジメント業務を適切に実施 ①予防プラン業務を適切に行う。 ②委託ケースの適切な管理を行う。 2. 地域ネットワークからの情報共有 ①地域からの相談ケースは協議し複数体制で対応 ②個人情報の取扱に注意する。 ③情報提供者と繋がる関係の維持	包括作成件数	総合事業対象者		27件	1. 介護ケアマネジメント ①②について、認定者数増加、サービス利用者は前年から500件増となり、委託先を市外含め、委託先を探す業務が増加している。 2. 地域ネットワークからの情報共有 ①②③相談件数が増加、複数で対応し、ケアマネに繋いだ後も連携して対応必要な事例増加。ケアマネ交代相談も増加傾向。	1. 介護予防ケアマネジメント業務を適切に行う。 2.委託プランの適切な管理をおこなう。	1. 介護予防ケアマネジメント業務を適切に実施 ①予防プラン業務を適切に行う。 2.委託プランの適切な管理を行う。 ①委託ケースの適切な管理を行う。 ②個人情報の取扱に注意する。 ③情報提供者と繋がる関係の維持		
			要支援1		412件					
		委託事業所作成件数	要支援2		309件					
			小計		748件					
		合計	総合事業対象者		39件					
			要支援1		1,336件					
		要支援2		1,420件						
小計		2,795件								
その他	県外住所地特例の方 25市区(延べ31名)									
事業間連携	①認知症サポーター養成講座を開催。サポーターの活躍の場を模索していく。 ②認知症家族の会年6回開催、認知症カフェ継続開催。 ③未開催地域の自治会や老人会での介護予防教室を計画する。 ④その他の事業の質的な維持を目指す。	一般介護予防事業	認知症サポーター養成講座	(回)	3回	①認知症サポーター養成講座を3回開催。おおぐろの森小で初開催。感染対策を取りながら、対面でクイズなどを盛り込んで参加型の工夫が好評であった。またサポーターの活躍の場については来年度の課題に繋ぐ。 ②認知症家族会5回、認知症カフェ7回開催。新たな方の参加が増えている。初参加の方がOBメンバーに相談できる機会となっており、引き続き開催する。 ③依頼されたが、コロナ禍で中止。来年度に開催延期。 ④元氣高齢者支援団体とコラボ企画で成果が見られた。今後も協力していく。	1. 介護予防教室・認知症サポーター養成講座開催で高齢・認知症になっても、安心して生活を継続することできるような地域づくりを啓発する。 2. 地域住民や専門職と必要なタイミングで繋がるように関係構築、情報共有を目指す。	1. 認知症サポーター養成講座を開催 ①東初石3丁目自治会向けに講座とフォローアップの企画をし、具体的活動に繋げる。 ②認知症家族の会年6回開催、認知症カフェ毎月第4金曜日午後継続開催 2. 地域住民・関係機関との関係構築 ①ながいき100歳体操グループに訪問を計画する。 ②介護予防教室開催で包括周知・啓発に務める。 ③流山市元氣高齢者支援団体と、啓発活動を共に企画・運営・参加協力する。  ＊緊急事態宣言下は計画を見直す。		
			生活支援体制整備事業							
		在宅医療介護連携推進事業	・市民向け講演をYouTube配信で開催 ・おうち療養誌企画・作成協力							
			認知症の人やその家族への支援	認知症サポーター養成講座	(延)				74人	
		その他	家族会・カフェ含む	(回)	12回					
	認知症地域支援推進員としての活動			会議参加など						
	認知症初期集中支援チームとの連携			0事例・会議参加協力						
	その他	・自治会役員向けに包括の紹介・広報クローバー郵送で配布を行った。 ・流山市元氣な高齢者支援団体とのコラボ企画開催。【一部】弁護士講師による遺言・成年後見制度の講話。【二部】市民団体と包括・成年後見制度推進センターのパネルディスカッション企画、運営・参加協力。								